

山形市の介護事業者がなすべく、山形市内介護・福祉事業等連絡会（釜田幸祐会長）は今年から、インターネットの介護マッチングサービス「スカッター」を活用し、介護関係の業務を手伝う有償ボランティアと市内事業所のマッチング事業を開始した。多様な人材に介護の仕事の魅力や、やりがいに触れてもらい、人手不足解消や、地域全体で高齢者や障害者を支える機運醸成を目指す。



視覚障害がある男性利用者との会話を楽しみながら、「同行援護」をサポートした男子大学生（右）
＝山形市（訪問介護）こころ提供

介護の助っ人 地域から

山形の事業所 有償ボランティアとマッチング

少子高齢化で、介護職の需要が高まる中、県内の介護現場での働き手の不足は2026年に1584人、40年には5800人以上と推計される。全不足解消には外国人材や、情報通信技術（ICT）の活用に加え、多様な人材の確保に向け、裾野を広げる取り組みが不可欠となっている。

ボランティアはレクリエーションや介護を受ける人たちの話し相手になる他、清掃、配膳といった業務の補助での活躍を想定、各事業所から謝礼金が支払われる。スカッターはクラウドホスティングが提供されるサイトでフランスのスタートアップ「カーや勤労意欲のある「アクセシビリティ」主婦、学生など、介護・福祉分野に関心を持つ地域住民を幅広く募る窓口となる。

訪問介護こころ（山形市）では今月上旬、市内の男子大学生が自ら不

多様な人材確保

由な男性の散歩に付き添う「同行援護」のサポートをした。ヘルパーと腕を組んで公園などを散歩する男性の後を、会話を楽しみながら歩き、「散歩を終えた後の利用者さんの笑顔が印象的だった。気分転換の観点から外出することは大切で、同行援護の必要性を実感した」と感想を語ったという。

みんなで支える機運

同事業所副管理者の奥山忍さんは「交流サイト（SNS）などで、助っ人の活動を発信し、若い人が訪問介護に興味を持つきっかけをつくりたい」と話す。事業所は山形市の補助金を活用して実施し、20日現在で7事業所がボランティアを募集している。問い合わせは訪問介護こころの会田聡哉副管理者09072040003、メールアドレスniren.aitara@coccol.biz（注）